

隠岐圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
共地-3	隠岐産品のブランド力強化に向けた6次産業化の推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズを反映した商品開発は、今年度は新たに隠岐藻塩米と水産物加工品で取り組んだ。 販路拡大については、新たに水産物の販路の機会を増やすため「隠岐水産フェア」を開催し、一定の効果を得た。 一方、隠岐世界ジオパークの認定を受けて既存商品の改良や新商品の開発、島外の販路拡大の機運が高まっている。今後は、こうした動きを一層支援する必要がある。 	隠岐スモールビジネス協議会員の取り引き先数1社あたり(件)	55	62	113%
			品質の規格化が図られた商品数(件)	1	0	0%
			島根県物産観光館で定番化した隠岐産商品数(件)	55	49	89%
隠岐-1	隠岐の水田農業担い手育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 水田農業の担い手育成については本年5月に農業法人が新規設立され、水田農業を担う担い手として活動が期待される。 集落営農組織の育成及び法人化については本年度新たな設立はなかった。今後も集落営農組織の育成や認定農業者の育成と農地集積について継続的な取り組みが必要。 こだわり米の生産拡大については前年度より作付面積は25%増加したが作柄不良の影響で集荷量は前年より増加したものの目標達成できなかった。 藻塩米は、H25年産より、従来の中京圏等に加わえ、25年産から首都圏への販売を開始し、販売先が拡大した。 こだわり米の生産拡大に向け生産者及び栽培面積の拡大、収量・品質向上に向けた栽培指導の徹底を図るとともに販売対策のを行う必要がある。 転作作物の生産体制整備及び生産安定についてはWCSコントラクター組織の設立等、生産体制が整備されつつある。今後も生産安定に向けた栽培技術支援及び白小豆の選別機の導入等集荷体制の整備を進める必要がある。 	集落営農法人数(組織)	3	3	100%
			こだわり米のJA集荷量(t)	140	86	61%
			白小豆のJA集荷量(t)	6	6	100%
			肥育牛の出荷頭数(頭)	144	148	103%
隠岐-2	隠岐牛産地拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 放牧の利用推進のために、公共牧場の整備、牧柵の補修や雑灌木の除去を実施。 隠岐の島町では水田を活用した、稲WCSの利用調整、生産拡大に向け、推進協議会が設立されたWCSの収穫供給体制が整備された。また、海士町でも本年度2ヘクタールで稲WCSの栽培を開始した。 島前・島後地域の生産者および関係機関との意見交換を行い地域団体商標登録のための追加資料の提出を行った。 また、10月に開催された東京食肉市場まつりを利用したPR活動を実施。 	子牛出荷頭数(頭)	1,150	1,213	105%
			脂肪交雑育種価	1	1	105%
			飼料米・稲WCS利用農家戸数(戸)	5	12	240%
			地産地消拠点販売額(万円)	6,000	6,606	110%
隠岐-3	隠岐の地産地消拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 農産物等の販売額については各町とも販売額が増加しており、本年度目標を達成した。 魅力ある新規品目の導入については隠岐の島町で1品目、西ノ島町で2品目導入。 集荷・流通システムの構築のうち新規直売所への供給体制整備については、集荷体制が確保され、徐々に生産が拡大している。 隠岐の島町では直売所や関係団体等と集荷体制について検討しており、今後、具体的な方策を検討する。 学校給食福祉施設等への供給拡大については、学校給食への供給はまば計画どおり行われている。給食以外については実需者の要望を踏まえ、今後、食材提供品目の選定・方法等について検討を行う必要がある。 	新規品目数(加工品含む、/年)	4	2	50%
			学校給食・福祉施設等への食材提供箇所数(箇所)	7	4	57%
			地産地消拠点販売額(万円)	6,000	6,606	110%